

令和5年度 学校評価自己評価表（最終評価）

三次市立作木中学校

<p>ミッション</p>	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びを創造することで、確かな学力を身に付けた生徒を育成する。 (2) 学校・関係機関と協働し、作木中学校区の特性を生かした特色ある教育活動を推進することで、ふるさと作木を愛し、地域の将来を担う生徒を育成する。 (3) コミュニティ・スクールとして、学校・地域・家庭が協働し、生徒の成長を支える学校。</p>	<p>学校教育目標</p>	<p>「自律」・「協働」・「挑戦」 ～ふるさと作木を愛し、新しい時代をたくましく生きる生徒の育成～</p>	<p>(1) 確かな学力定着をめざし、自ら考え行動し、主体的に学ぶ生徒を育成する。 (2) 豊かな心と感性を育て、自分や他者を大切に育てる生徒を育成する。 (3) 基本的な生活習慣を身に付け、健やかな体をもつたくましい生徒を育成する。 (4) ふるさと作木を愛し、グローバル社会の中で、未来を創造する生徒を育成する。 (5) 小中一貫教育（さくぎ教育）を更に充実・発展させ、コミュニティ・スクールとして、「地域とともにある学校」づくりを推進する。 (6) 業務改善を推進する。</p>
--------------	--	---------------	---	--

	中期経営目標	短期経営目標	評価項目	自己評価				学校関係者評価		改善策
				評価データ	達成度	評価	結果の説明	評価	コメント	
知	確かな学力定着をめざし、自ら考え行動し、主体的に学ぶ生徒を育成する。	○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	◆生徒アンケートの肯定的評価80%以上 ①課題について予想や見通しを立てている。 ②調べたことを図、グラフ、表などにまとめている。 ③自分の考えを積極的に伝えている。 ④根拠を明らかにして相手に伝えている。 ⑤振り返りは理由などを考えている。	生徒アンケートの肯定的評価 平均 75.7% ①89.3% ②82.1% ③75.0% ④71.4% ⑤60.7%	95%	4	・「調べたことを図、グラフ、表などにまとめている。」に肯定的に答えた生徒は82.1%であり、文章だけでなく、様々な方法で表現しようとする生徒が増えた。 ・「振り返りは理由などを考えている。」について、肯定的に答えた生徒は、60.7%にとどまり、7月よりも25.3ポイント下回っている。自己の学び方をじっくり振り返ることができていない。	A	◆少数者なので、割合で評価するのは難しいと思う。 ◆将来、社会人になってどのような仕事をしたいか、自分の将来を考えると卒業後の進路を決める大切なことであり、それが勉強に取り組むことにつながると思う。 ◆生徒アンケート⑤の評価が7月より大きく下回っていることについて、自己の学び方をじっくり振り返ることができていない原因を考える必要があると感じる。 ◆結局は家庭学習ができていないと思う。家庭学習をいかに定着させるかが課題だと思う。 ◆生徒アンケートは全体的に肯定度が高いが、自己評価にもあるように、振り返りができていないことが今後の課題だと感じる。 ◆試験前の学習時間が30分未満の生徒が28%と多いことが心配である。	・各教科の「見方・考え方」を備かせる授業づくりを継続するとともに、さらに深い思考を促す発問の工夫を行う。 ・自分の考えを、言葉だけでなく、図、グラフ、表などを用いて、できるだけ分かりやすく表現する工夫をさせる。 ・学習の振り返りでは、どこまで分かったか、うまくいったことや失敗したことについて、その理由を考えさせる。
		○基礎的・基本的な学力の定着	◆三次市学力到達度検査（1・2年）については全国平均以上の生徒の割合、実力テスト（3年）については県平均以上の生徒の割合65%以上	・5教科×26人＝延べ130人で1、2年は全国平均と3年は県平均と比べると、延べ52人が全国及び県平均以上であった。 全学年の平均を比較すると40.0%	62%	3	・1、2年については全国平均以上が34%である。 ・3年については50%である。 ・特に1、2年については課題が大きい。	A	・授業の充実を図る。具体底には、知識理解の定着を重点的に取り組み、併せて、生徒が思考しお互いの考えを高め合う場面を大切にいく。	
		○自己調整力の育成	◆定期試験前の平均家庭学習時間90分以上の生徒の割合80%以上	・定期試験前の学習時間 2学期期末 30分未満 28.6% 30分～60分 21.4% 60分～90分 10.7% 90分以上～ 39.3%	49%	2	・生徒アンケートの結果、本校が目標としている家庭学習90分以上の生徒の割合が39.3%であり、評価指標の80%以上の生徒に対してかなり少ない。	A	・これまでは生徒への相談体制を中心に取り組んできたところだが、どのように学習をさせるのかについてもより重視してしていく。例えば学習相談等は継続しながら、これまで以上に授業と家庭学習課題とつなげる工夫などの取組みをしていきたい。	
徳	豊かな心と感性を育て、自分や他者を大切に育てる生徒を育成する。	○生徒指導・教育相談の充実及び主体的な生徒会活動の推進	◆生徒アンケートの肯定的評価の割合80%以上 ①学校生活は充実している。 ②授業に満足している。 ③部活動に満足している。 ④自分にはよいところがある。 ⑤自分まわりから認められている。	・アンケート（12月実施）の結果（肯定的評価） ①学校生活は充実している。（100%） ②授業に満足している（92.8%） ③部活動に満足している（57.2%） ④自分にはよいところがある。（92.9%） ⑤自分まわりから認められている。（85.7%） 平均 85.7%	107%	5	・生徒アンケートの結果、肯定的回答の平均は85.7%であり、目標を達成している。 ・学校生活に関する項目①は、100%であるが、部活動に関する項目③は、57.2%と低い。	A	◆先生方の授業改善等、努力のおかげで9割以上の生徒が授業に満足していると答えている。しかし「満足」というのは十分に理解できて「満足」なのかどうか疑問を感じる。 ◆肯定的評価がこれだけ高いのは素晴らしいと思う。部活動に関しては、人数が少ないので仕方ない面もあると思う。 ◆部活動に半数近くの生徒が満足していないのは、部活動の種類が少ないことより、活動内容に課題があると感じる。 ◆道徳の授業に関しては、全体としては目標値に達していないが、「ためになる」と思っている生徒が7月よりかなり増えているのは素晴らしいと思う。 ◆道徳の授業に役立っていることがうかがえて良い結果だと思う。	・学級活動や生徒会活動、学校行事等を通して、生徒が協働する場面を設定し、自身や他者の良さに気づかせる。 ・部活動の目標を明確にするとともに、個人目標を設定する。生徒に合わせた練習メニューを取り入れ、前向きに取り組めるようにする。
		○道徳教育の推進・充実	◆「道徳の時間」における生徒の授業満足度85%以上	・生徒アンケートの「「道徳の時間」は、心に残ったりためになったりしています。」の結果 1 とても思っている 67.9% 2 かなり思っている 14.3% 3 あまり思っていない 14.3% 4 全く思っていない 3.6% 肯定的回答 82.2%	97%	4	・道徳の授業に対して肯定的な意見を持つ生徒の割合が82.2%となり、目標値に到達することができなかった。	A	・引き続き生徒の実態に合った授業展開を行う。 ・発問や教材設定を工夫して生徒たちが道徳的価値について多面的・多角的に考えられるようにする。	
体	基本的な生活習慣を身に付け、健やかな体をもつたくましい生徒を育成する。	○基礎体力の向上	◆計画的指導により、新体力テストの県平均及び全国平均以上の項目の割合65%以上	・県平均及び全国平均値以上の割合 1 学年：39.4% 2 学年：52.2% 3 学年：86.3% ・新体力テストの県平均及び全国平均以上の項目は、58.5%であった。	90%	4	・1学期から行ってきた朝練習により、持久走が全体的に向上することができた。 ・スピードや瞬発力に関しては県平均及び全国平均を下回る生徒の割合が半分以上になっている。	A	◆充実した授業展開が学力につながっていく取り組みが必要である。 ◆取り組みの成果があらわれていると思う。この調子で学年が上がるにつれて、体力が向上していくことを期待する。 ◆1・2年生が、学力テストもそうだが、基礎体力も全国平均を下回る生徒が多いことが気になる。 ◆基本的な生活習慣の確立は、学校だけでできるものではないので、保護者との連携が必要である。 ◆就寝、起床時間を決めていない生徒が多く、生活リズムが守られていないと感じる。	・体育の授業において取り扱う単元に関わる体力づくりトレーニングを行う。 ・部活動において体力づくりに関わるメニューを充実させ、生徒が主体的に運動に取り組めるようにする。
		○基本的な生活習慣の確立	◆3点固定の出来ている生徒の割合70%以上 ①家庭学習の開始時刻 ②就寝時刻 ③起床時刻	・アンケート（12月実施）の結果（肯定的評価） ①家庭学習の開始時刻を決めている。（46.4%） ②就寝時間を決めていない。（64.3%） ③起床時間を決めていない。（71.4%） 平均 61.4%	88%	4	・生徒アンケートの結果、肯定的回答の平均は61.4%であり、目標を達成していない。 ・起床時間に関する項目③は、前回と比較して15%下がっている。	A	・教育・学習相談を通して、生活・学習習慣について指導・助言を行い、生徒の自己指導能力を育てる ・保護者と連携し、基本的な生活習慣の確立（学習時間の確保、就寝・起床時間の固定）を促す。	
信頼される学校	小中一貫教育（さくぎ教育）を更に充実・発展させ、地域とともにある学校づくりを推進する。	○積極的な情報発信	◆保護者の学校評価アンケートの肯定的評価85%以上 ①作木中学校の教育に満足している。 ②作木中学校の教育活動については、学校だよりや学級通信などでよく知ることができる。	・保護者の学校評価アンケート「作木中学校の教育に満足している」の結果 ①作木中学校の教育に満足している。90.9% ②作木中学校の教育活動については、学校だよりや学級通信などでよく知ることができる。90.9% 肯定的回答 90.9%	107%	5	・目標への達成度は100%を超えており、目標を十分に達成することができた。しかし、アンケートの①②とも否定的な回答が9%いる。	A	◆保護者の肯定的評価がとても高く、先生方の日々の努力のあらわれだと感じる。「ふるさとまつり」への参加は、地域の皆さんもとても喜んでおられた。 ◆保護者と先生とのつながりを深めることが特に必要と感じる。そのためには、保護者からの発信がどのような状況か気になる。 ◆先生方の頑張りや、生徒の姿を通して保護者に伝わっていると感じる。家庭学習の定着等、保護者の方も課題をしっかりと受け止めてくださると良い。	・目標値はクリアできているが、否定的な回答に対する分析が必要である。
		○作木ふるさと学習の推進・充実	◆生徒アンケートで、「作木に愛着を感じ、誇りに思う」と答える生徒の割合90%以上	・生徒アンケート「作木に愛着を感じ、誇りに思う」の結果 1 とてもあてはまる 60.7% 2 ややあてはまる 32.1% 3 あまりあてはまらない 7.1% 4 まったくあてはまらない 0% 肯定的回答 92.8%	103%	5	・アンケート結果から達成度は100%を超えており、目標を上回る結果となった。しかし、「とてもあてはまる」が10%近く下がっている。	A	◆7月は肯定的回答が100%でしたが、今回はわずかながら否定的な回答があり、その理由を聞いてみたいと思いました。地域でできることのヒントが見つかるかもしれません。 ◆保護者の肯定的評価と生徒の作木アンケート結果が共に90%を超えているのは素晴らしいと思う。 ◆学校に対する保護者の評価が高い事がうかがえ、信頼関係が築けていると思われる。 ◆作木に愛着を持っている生徒が多いことは、ふるさと学習が成功していることのあらわれ。	・今年度より、地域の方との関わり合いも増えてきた。今後は、取組の質的向上を図るとともに、生徒への肯定的評価を重ね、作木への愛着・誇りを育てていく。
		○業務改善の推進	◆職員アンケートの肯定的評価の割合85%以上 ①子供と向き合う時間が確保されている。 ②自分は業務改善を進めることができた。	・「生徒と向き合う時間が確保されている」と回答した教員の割合は73%であった。達成度 85.9% ・「自分は業務改善を進めることができた」と回答した教員の割合は55%であった。達成度 64.7% ・①②の平均は、75.3%である。	89%	4	・今回も目標値の85%には届かなかった。しかし、「子供と向き合う時間が確保されている」の達成度は85%を超えており、また業務改善は前回より5%伸びた。	A	◆業務改善を進め、生徒と向き合う時間を確保するために、努力しておられることがよく分かる。 ◆職員が生徒と向き合う時間が確保できていると感じるのはいい傾向である。	・業務の効率化を図り、生徒と関わる時間の確保が課題である。職員の業務改善への意識も向上している。 ・学校衛生委員会を定例的に実施するとともに、機能化を図りながら、教職員の時間外在校時間を縮減する取組を継続していく。

学校自己評価	達成率	結果
5	100%以上	目標を十分達成している
4	80%～100%未満	目標を概ね達成している
3	60%～80%未満	目標をやや下回っている
2	40%～60%未満	目標を下回っている
1	40%未満	目標を大幅に下回っている

学校関係者評価	評価	結果
A	自己評価は適正	
B	自己評価は適正でない	
C	判断できない	